

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.11
検診は受けた
けれど…

か〜つ。肩に喰い込んだ警策が背骨に響く。

「煩惱まみれじゃ。臨死体験までしておきながら、なぜ、その一口をセーブできぬかの〜。」

気が付くと和尚が後ろに立っていた。そうか、俺は健康道場に来ていたのだった。

私は生活習慣病にまみれた小太り親父。と、言い切ってしまうにはまだ若い38歳、どこにでもいる普通のサラリーマン。標準体重は63kg。若い頃はいくら食べても太らないことが唯一の取り柄で痩せの大食いによく言われたものだった。ところが今は78kg、腹回りが少し気になるようになってきた。…というも落とすとしたボールペンを取るのがいささかしんどいのである、言うまでもなく腹の脂肪が邪魔になっている。つまり、いつの間にか肥えてしまっ

た。あまりにも、ごく自然に、しかも気が付けば肥えてしまっている為に、何で太ったかがさっぱり分からない。4年後には98kgになり、急性心筋梗塞で片足を棺桶に突っ込んでしまう運命が待っているのだが。

あ、そうそう、この間、会社の検診を受けました。どうも、メタボらしい。メタボって何じゃらほい。昔の流行語大賞で聞いたことがあるような、ないような。会社命令で検診を受けたが、そもそも、何で検診なんか受けないといけないのかと考えてしまう。どこも痛くも痒くもないのに。ただ、悲しいかな、私も農耕民族の末裔なのだ。親方日の丸の命令には弱い。費用も会社持ちだし、家計にダメージがあるわけではなく、小遣いが減るわけでもないのだから、まっ、い〜か。しかも、会社の命令に背いてブラックリストに載るのは困る。「取りあえず、採血させてあげるか、穏便に物事を済ませるために…以上。」程度のことなのである。

そこをメタボだからあーじゃこうじゃと言われても困る。しかも、保健指導を受けろ！何を言うとんじゃ、あさって出直してこいちゅうもんや。「俺の人生は俺のもの、ほっといてや。」

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽 一